

研究発表もうしこみフォーム

氏名：包苓春

氏名のローマ字表記：BAOLINGCHUN

所属：神戸大学国際文化学研究所

専門分野：歴史

発表のタイトル：

近現代東部内モンゴルにおける蒙地開放問題の一事例-ゴルロス前旗乾安県における土地売却の手続き-

発表要旨（600字～800字程度）：

現吉林省の乾安県地方は、もともとゴルロス前旗の土地であった。乾安県は民国15(1926)年に、吉林省省長張作相が当時のジリム盟盟長兼ゴルロス前旗旗長であったチメドサムピルと協議した上で、ゴルロス前旗の西部を調査、測量して、漢人農民に払い下げた後、中国本土風の行政機構（県）を設置し、官吏を置いて管轄した。当時は「吉林勘放蒙荒総局」という開放事務を担当する役所が設置されたが、私はそこから出された布告、公函、また当該蒙地が開放される際に定められた規則である「蒙荒勘放章程」などの一次現地史料と満州国期に興安局よって調査、発行された『開放蒙地資料第1輯郭爾羅斯前旗開放蒙地調査報告書』を使って、まず、乾安県は吉林軍閥政権によって一方的に1926年6月1日長嶺県泰和鎮に吉林勘放蒙荒総局を設立させて開放したことを明らかにした。次に蒙地を測量する際にその方法としては、まず土地を「井」(3 km×3 km)という広さに区分して行き、続いてこれを均等に36分割して、1つの「井」の内部に36個の「方」(500m×500m)を作るという方法を使って「整井」(正方形の「井」)を合計274個、「破井」(県の境界あたりに位置するために正方形にできなかった不完全な形の「井」)を35個作って、各「井」の西北隅に木質の大標識の杭を一株立てて、地図上の右(東)から左(西)に向かって「千字文」の天地玄黄などの文字を順番にを使って、これら1つ1つの「井」を命名していったことがわかった。

2018の日本モンゴル学会春季大会では、また同じ「吉林勘放蒙荒総局」から出された「吉林蒙荒総局招領章程」という現在乾安県文書局に所蔵されている史料と『開放蒙地資料第1輯郭爾羅斯前旗開放蒙地調査報告書』を使って、土地の測量が終わった後の具体的な売買手続きとそれに伴う諸問題について発表させていただきませんか。よろしくお願いたします。